衣服の構成について友だちと一緒に考え，活動へと活かしていく子ども

－ 中学３年『手作りを楽しもう』の実践から －

１．題材の構想

家庭科では，実践的・体験的な活動を通して，基礎的・基本的な知識及び技術を活用して，生活の中の課題について，生活をよりよくしようと工夫する能力と進んで実践しようとする態度を育てることを大切にしている。

衣生活領域の製作の学習においても，基礎的・基本的な知識及び技術を活用して，作りたいものを思考し表現することで，よりよい生活につながり，家庭でも実践しようとする態度が育まれるだろうと考える。本題材では，ハーフパンツの製作（教科の構想「製作題材と基礎・基本，技術」より）について，どういう構成で成り立っているのかを試行錯誤しながら考え，作品に表現していくことで，思考力・判断力・表現力を育成したいと考える。また，自分の製作したいものを表現したり，見通しをもって製作したり，基本的・基礎的な知識や技術を活用して目的に合った作品に仕上げることができたりするようになることも思考力・判断力・表現力の育成につながってくるであろう。

本題材では，家庭科における思考力・判断力・表現力を育成するために，立体構成の衣服であるハーフパンツについて，型紙をグループにより共同で試作をして，どうすればハーフパンツの形になるのかを生徒どうしのかかわり合いを大切にして話し合いながら展開していく。

具体的には，製作前の段階において，ハーフパンツがどういう構成でできているのかをグループで考え，新聞紙を用いて実際に作ってみることで，友だちとかかわり合いがもて，思考の幅を広げ，構成について理解を深めていくだろうと考える。製作については，個別での活動となるが，ハーフパンツの構成を理解していないとどこを縫っていいのかわからないので，全員が理解した上で製作していくためには，友だちとのかかわり合いを通じて共通理解した方が製作に移りやすいと考えた。

生徒は選択教科として家庭科を選んできているので，家庭科が好きな生徒の集まりである。また，家庭科に対して，意欲的な生徒が多い。

しかし，２年生のときの衣服の洗濯と手入れの学習では，ボタン付けもまともにできなかったことから，基礎的・基本的な知識や技術が定着していないという姿も見られた。これは，衣生活の領域の学習に関して，小学校から段階的に学習してきてはいるが，中学校では２年生で学習するのみであり，小学校から期間が空いているためであると考えられる。特に，ミシンについては，小学校で経験しているはずであるが，小学校以来ミシンに触れる機会がなく，使い方を忘れている生徒が多い。また，自分で衣服を作ったことがあるかどうかを尋ねてみたところ，一人もおらず，経験がないということであった。そのため，ほぼ全員がどういう手順で作るとかどういう構成で作られているのかとかわからないであろうと予想される。

小・中学校の衣生活領域の学習の中で，布を用いた製作について平面構成と立体構成のものを取り上げることとしている。平面構成については，小学校のときに布を用いて生活に役立つ物やエプロンを製作することを通して学習しているが，立体構成については本題材が初めての扱いとなる。平面構成との違いを実感してほしい。

このような生徒の実態を踏まえて，本題材では，ハーフパンツの製作を通して，自分や家族の生活を豊かにするための工夫ができるようにする。また，これからの生活を展望し，課題をもって衣生活を工夫し，実践しようとする意欲と態度を育てるようにすることをねらいとしている。

製作に当たっては，小学校で学んだ手縫いやミシン縫いなどの基礎的・基本的な知識と技術の復習も兼ねながら発展させ，効果的に活用し，生活を豊かにする具体的な物を計画し製作できるようにする。製作に必要な材料，用具，製作手順，時間などについても，見通しをもち，目的に応じた縫い方や製作方法などを工夫し実践できるようにしていく。

製作前に，ハーフパンツの構成についてグループでの共同試作をし，考える活動を取り入れることに

よって構成を理解した上で見通しをもって取り組み，思考力を身につけることができると考える。

生活に活かす力をつけるために，作品の完成後に生活の中で活用できるものとして，ハーフパンツを実習で扱う題材として設定する。ハーフパンツは立体構成であり，限られた製作時間や生活の中で活用する教材としても適していると考える。その際，共通の条件の中で，製作の目的を明確にもつことができ，生徒の個性や工夫が活かせるよう配慮したい。

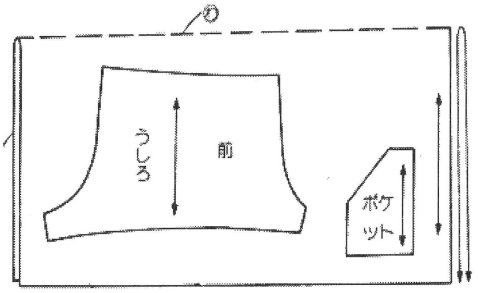
また，製作を通して，生涯を通じて生活の中で活かされる力をつけることの大切さを実感できるようにする。さらに，製作することを通して，ものを大切にする心や喜び，成就感などをはぐくむこと，また，製作したものを活用することが製作や活用の喜びとなるようにしたい。

小・中学校の衣生活領域は，小学校で基礎的・基本的な知識や技術を身につけ，次第に布を用いた簡単なものを工夫しながら製作していく中で定着させ，生活の中でも活用できるようにしていく。そして，中学校で衣服の洗濯と手入れや布を用いた物の製作や生活を豊かにするための工夫を考え，最終的に衣生活に課題をもち基礎的・基本的な知識と技術を活用して，主体的に問題解決できるようにをすることとしている。

このようなねらいを達成するために，本題材は，ハーフパンツの製作を通して，小学校で学んだ手縫いやミシン縫いなどの基礎的・基本的な知識と技術などを効果的に活用しながら，生活に課題をもって取り組み，活かすことができるようにしたい。

第１次では，ハーフパンツの製作に向けて課題をもち，その課題目的に合わせてデザインを考える。製作時間や形などある程度同じ条件で考えていくことを伝え，イメージを絵や言葉に表現していく。製作時間を伝えたり，見本を見せたりすることで，見通しをもたせ，製作の意欲へとつなげたい。生徒が衣服に関心をもち，問題があればそれを改善する工夫を考えたり，自分や家族の衣生活をさらに豊かにするための工夫を考えたりするなど，課題をもって製作を行い，衣生活をよりよくしようとする意欲と態度を育てるようにしたい。

第２次では，第1次で考えたデザインをもとに型紙を作る。このとき，いきなり型紙を作るのではなく，ハーフパンツがどういう構成でできているかについて考える。ハーフパンツの型紙は，一見ハーフパンツに見えない。製作していても，自分がどこの部分を作っているかわからないまま製作していくことになるだろう。実生活での実践へとつなげていくためにも理解を伴って製作してほしいという願いからハーフパンツの構成の理解を得る場を設ける。まずは，自分たちで布をどのように裁ち，縫えばハーフパンツになるか考える。その考えをもとに，グループで友だちと一緒に新聞紙を使って試作をしてみる。実際にはくことのできる大きさのものを作り，自分の考えた構成で，破れずに脱ぎ着することができるのか試してみる。グループで思考錯誤しながら，友だちと協力して取り組ませたい。ハーフパンツの構成が理解できた後，実際に採寸をし，型紙を作る。型紙を作るときには，裁断の仕方やしるしのつけ方など技術もきちんと押さえつつ，取り組んでいきたい。



ハーフパンツの型紙

第３次では，第２次で作った型紙をもとに，ハーフパンツを製作する。これまでに身につけてきた基礎的・基本的な知識や技術を活用して製作していく。製作に移る前に，基礎的・基本的な知識や技術が身についているか確認するために，手縫いやミシン縫いの基礎縫いを練習する。忘れていたりきちんと身についていなかったりする生徒に対して，小学校での学習を思い出すことや基礎・基本の定着をより確実なものとしたい。第２次でハーフパンツの構成について理解しているので，この製作途中の段階でも，ハーフパンツの前と後ろを確認しつつ，どこの部分を縫っているのかを理解した上で，ポケットを付ける位置や工夫するところについても考えながら作ってほしい。

第４次では，ハーフパンツ完成後，互いの作品を発表し，ふりかえりをする。工夫したところや苦労したところなど発表する中で，ものの大切さや喜び，達成感を感じてほしい。次はこうしてみたい，こ

うすればもっと上手にできたなどということについてもふりかえることで，効果的に家庭への実践ができるようにしたい。そして，主体的に課題を見つけ解決する力を身につけてほしい。

2．題材計画（全16時間）

次	主な学習活動	時	具体的な学習活動
1	ハーフパンツのデザインを考えよう	1	○オリエンテーションをする。 ○課題目的をもつ。 ○目的にあわせてデザインを考える。
2	ハーフパンツの型紙を作ろう	2	○ハーフパンツの構成について考える。 ○新聞紙を使って試作をする。
		3・4	○採寸をする。 ○自分に合った型紙を製作する。 ○布に型紙を合わせ，布を裁つ。 ○印つけをする。
3	ハーフパンツを作ろう	5～15	○手縫い，ミシン縫いによる基礎を復習する。 ○ハーフパンツを手順に沿って製作する。
4	実践発表会をしよう	16	○工夫したところや苦労したところなど実践発表会をする。

評価計画

次	時	関心・意欲・態度	創意工夫	技術	知識・理解	家庭科における思考力・判断力・表現力
1	1	製作について課題をもち，計画を立てて製作しようとする。				目的にあわせたデザインを考え，絵と言葉を使って表現している。
2	2				ハーフパンツの構成について理解している。	グループで協力して，ハーフパンツの構成について考えている。
	3・4			正しく採寸をし，型紙を作っている。	製作に必要な材料や用具や製作方法がわかる。	
3	5～15	最後まで粘り強く製作に取り組み，完成しようとする。	デザインをもとに，必要に応じた縫い方を考えたり，自分なりに工夫したりしている。	衣服製作のための手縫いやミシン縫いなどの基本的な技術を活かして製作している。	製作の手順がわかる。	
4	16	互いの作品の良さを認め合おうとする。			自分の学習への取り組みをふりかえり，自己評価することができる。	互いの作品の良さをみつけ，家庭への実践に活かしている。

3．授業の実際

(1) 製作について課題をもつ

最初に，生活を豊かにするために，これからの生活を展望し，課題をもってその解決に向けて取り組むために，ハーフパンツを製作する目的を考える。目的を達成するために活動に取り組み，これからの生活の中で実践へとつなげる導入とした。

ハーフパンツを部屋着にしようと考えていた生徒は，そのためにどういうデザインで，どういう機能性をもつとよいのかを考えながらイメージをもつことができた。ポケットがいるかいらないか，また，必要であるとしたらどういう形でどこにつけるのかを考えることで思考力につながり，そのイメージを言葉や絵を使って描くことで表現力につながると考える。

次に，本題材で特に思考力・判断力・表現力を育成する場として設定した第２次の立体構成の衣服であるハーフパンツについてのグループでの型紙の共同試作を中心に述べていく。布での製作前の段階において，ハーフパンツがどういう構成でできているのかを新聞紙を用いてグループで考え，実際に作ってみることで，友だちとかかわり合いながら，思考の幅を広げ，構成について理解を深めていくと考える。

(2) グループによる共同試作

第２次のハーフパンツの型紙作りでの活動のようすである。

ハーフパンツを作るときにどのような形で布を裁つか，そしてどことどこを縫い合わせればハーフパンツになるのか，イメージをワークシートに表す。そのイメージを本当に破れずにはくことができるのか新聞紙で試作してみる。この活動を入れることで，立体構成であるハーフパンツの構成が理解できると考えた。

左の写真は，グループの中でハーフパンツの構成について考えている場面である。１枚の布をどのような形で裁ち，どのように縫い合わせればハーフパンツができるのかを互いの考えを持ち寄ってグループで話し合いながら試作をしていった。試作は新聞紙を用いて作り，自分たちの考えた構成で脱ぎ着のできるものとなっているかについて実際にはいてみながら考えさせ，破れた場合には，なぜ破れてしまったのかを考えることで，ハーフパンツの構成について理解できると考えた。

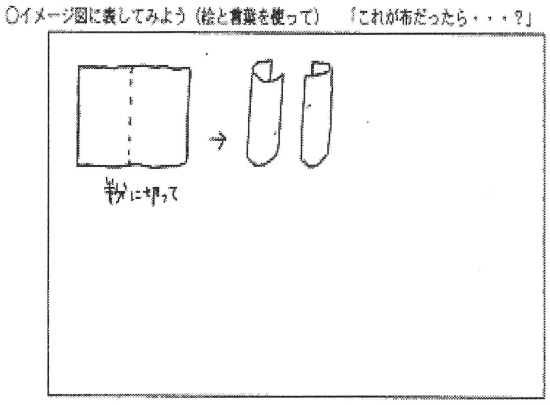


図１

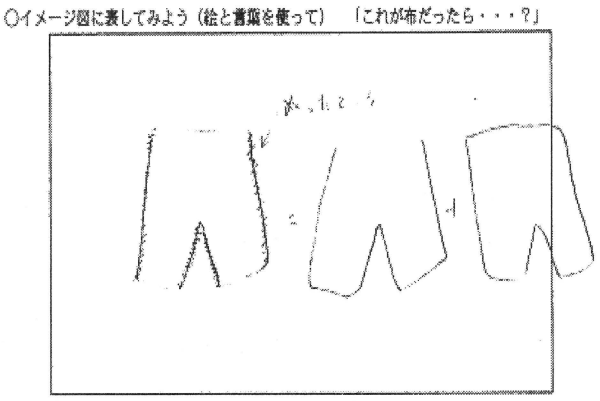


図２

図１と図２は，グループで考えたハーフパンツの構成である。図１は，新聞紙を半分に切って，１枚は右パンツになる部分ともう１枚は左パンツになる部分ができるように考えている。図２は，新聞紙を

図2に描いている形に2枚切って，前パンツの部分と後ろパンツの部分ができるように考えている。これらを見ると，どちらも後ろパンツのまた上になる部分のゆとりが考えられていないことがわかる。実際に新聞紙による試作したものをはいてみれば，はけないことに気づくと予想していたが，はけるグループも出てきて，本来のハーフパンツの構成とは違ったものでもできるという結果になったグループもあった。しかし，破れないというだけでなく，体の形にぴったり合うかという点では，ウエストが余ったりしわができたりしているグループもあった。実際にはいてみて気づいたことから，破れずに体にぴったり合うハーフパンツにするためには後ろパンツにはゆとりが必要であることを理解するのにつながったのではないかと考える。

本題材は，家庭科を選択した生徒を前半と後半の2つのクラスに分けて授業をしている。前半クラスは，最初から採寸，型紙選びという被服製作の基本をする学習の流れで体験を通して個別に指導しながらハーフパンツの構成について理解していき，後半クラスは，ハーフパンツの構成について考える時間をもち，最初に理解した上で製作していき，作品を完成させていった。

両者を比べると生徒たちの姿に違いがあった。前半クラスは，ハーフパンツの構成について学習せずに製作しているため，型紙の形がどのようにハーフパンツとなっていくのかが全く見当がつかないのか「これがどうやってハーフパンツになるの？」という疑問をもった生徒がほとんどであった。そのため，製作するために個別に指導していく時間をしっかりととった。また，布を体に当ててみるということがなかった。このような姿が見られたことは，今，自分がどこの部分を縫っているのかわかりづらかったのではないかと考える。

後半クラスは，最初にハーフパンツの構成についてグループで考える時間を十分にとった。そのため，構成について習得できたので，製作途中でもまた上になる部分やすそになる部分など布の各部がハーフパンツのどこに当たる部分かを理解していたり，どことどこを縫い合わせればハーフパンツの形になるのかに気づいていたりと見通しをもちながら製作するという姿が見られた。前半クラスのように，構成について確認しながら製作していくよりも完成をイメージできた状態で製作する方がより完成に近づいていく様子がわかって次への製作意欲につながった。ポケットの位置について決めるときも「こっちが後ろになるから，この辺にポケットを付けよう」というつぶやきがあり，自分の付けたポケットの位置とハーフパンツの前と後ろを確認しながら考えて製作している姿が見られた。また，製作途中で，実際に布を体に当ててみるという行動をとるという姿も見られ，新聞紙を用いて共同試作してハーフパンツの構成を理解したという活動がそのとき限りに終わらず，製作していく中でも，活かされているといえる。

型紙の段階では，その形からハーフパンツになるとは一見想像がつかない。右パンツと左パンツのまた上の部分をつなげてみて，広げたところで初めてハーフパンツの形になるので，前半クラスの生徒のそのときの反応は大きかった。「ハーフパンツの形になっている！すごい！」「あ～これでハーフパンツになるんだ」などのつぶやきがあった。前半クラスは，体験をしていく中で，ハーフパンツの形が少しずつ見えてきて，右パンツと左パンツを縫い合わせたときに初めて完成の形が見えてきたことが生徒のつぶやきからわかった。

以上のことから，グループによる共同試作をし，話し合いながらハーフパンツの構成について考える場を設定したことは，衣服がどのように構成されているかを考えたり自分の作りたいハーフパンツにするために見通しをもって製作したりという思考力やグループで考えた構成について新聞紙で作ってみたり自分の作りたいハーフパンツを絵や言葉，作品に表したりという表現力の育成につながると考える。また，互いにハーフパンツの構成について話し合いながら正しい構成について共通に理解し，そのことを活かして製作していたり効率的であったりしたことから，効果的であったといえる。

ハーフパンツの構成について，新聞紙で共同試作をしたときの授業後のふりかえりを紹介する。

- ハーフパンツの構成が前とうしろではちがうことがわかった。自分が作ったパンツ（新聞紙による試作）もなんか違和感があったので，そういうことだったのかと思いました。けっこうはき心地などを考えて作ってあるんだと思いました。ハーフパンツを作る時は気をつけていきたいと思います。（A児）
- 最初，自分のイメージしていた構成とちがいました。おしりのゆとりもいるということを全然考えていませんでした。縫ったり切ったりするのが，少しのミスでズボンがはいらなくなったりするから大変そうだと思いました。まだ始まったばかりだけど，お手本を見たらすごく良い作品だったので，着用目的通りに使えるようなものを作れるといいです。（B児）
- 自分で構成を考えていた時は前と後ろで形は同じで，くっつけて終わりー！！みたいな感じに思っていたんですけど，よく考えればうしろにゆとりを考えないと破けちゃうとわかりました。普段，自分がはいているズボンの作りとかは気にしないので全然わからなかったんですけど，仕組みというか作りがよくわかったので良かったです。（C児）
- 思ったよりも考えて作られているのだとわかりました。人の体の形に合わせないと，すごくはき心地の悪いものになってしまいました。今回学んだことをいかして，次回からもがんばりたいと思います。（D児）

これらのふりかえりからも，ハーフパンツの立体構成について理解していることがうかがえる。自分たちで考えて新聞紙で表現してみて，このようなふりかえりができたことから，実感を伴った理解につながったと考える。

4．成果と課題

(1) 成果

ハーフパンツの構成を理解した上で作るのと体験を通して理解していくのとでは，大きな差があった。構成を考えてグループによる共同試作をする場を設けることは，思考力を育てるのに効果的であったといえる。なぜかというと，製作段階で，ただ作るだけに終わらずに，構成を理解して製作を進めることができ，その後の活動の見通しをもつこともできたからである。

また，一人ではなく，グループによる共同試作をしたことは，互いの考えを共有しあったり，試行錯誤しながら考えを深めたりして，構成について思考することができ，自分の考えを表現することができた。実際に自分で体験してみて，ハーフパンツの構成に気づくことで，理解につなげることができた。

(2) 課題

家庭科は，小学校5年生から中学校3年生まで，段階的に発展させて学習していくようになっているが，中学校1年生では，衣生活領域については学習しないので，忘れてしまう可能性がある。そうすると，もう一度，小学校の復習をやり直すということにもなりかねない。今回，本題材で取り組んだことで，やはり反復してやっていく必要があると感じた。また，小学校段階での確実な定着を図ることも大事だと考える。

思考・表現するための布を用いたものの構成についての基礎的な知識が身についていなかった。そのために考えを出し合って，話し合い，表現するための知識・技術がなく，自分より大きく作ればはくことができるという考えにいたることがあった。考え表現するためには，小学校段階で布を用いたものの平面構成，立体構成の違いを意識づけておくことが重要となる。　（文責　村松麻衣子）